

令和8年9月1日

蘭越町議会議長 熊谷雅幸 様

議員定数調査特別委員会
委員長 難波修二

議員定数調査特別委員会調査報告書

令和8年5月8日開会の蘭越町議会第2回臨時会において本特別委員会が設置され、付託された「議員定数調査」に関する件について、その調査が終了いたしましたので、結果を蘭越町議会会議規則第77条の規定に基づき報告をいたします。

記

1 調査事件 議員定数調査

2 委員

委員長	難波修二	副委員長	向山博		
委員	佐々木雄三	北山正一	淀谷融	金安英照	
	赤石勝子	柳谷要	永井浩	熊谷雅幸	

3 開催状況

第1回委員会	令和8年6月17日（水） ・調査の進め方について ・検討する事項（案）
第2回委員会	令和8年7月23日（木） ・調査の進め方について ・検討する事項
第3回委員会	令和8年8月10日（月） ・議員定数について
第4回委員会	令和8年8月21日（金） ・議員定数について
第5回委員会	令和8年8月31日（月） ・調査報告書について

4 調査概要

別添「議員定数調査特別委員会調査報告書」のとおり

議員定数調査特別委員会 調査報告書

1 調査の経過

本委員会は、議員定数に関する調査・研究を行うため設置され、町の人口動向、議会活動の状況、他町村の定数、住民意見、なり手不足の現状等を踏まえ、慎重に協議を重ねた。

協議においては、現状維持の10名を求める意見と、1減の9名を求める意見の双方が出された。

現状維持を求める意見では、議会の機能維持、行政監視機能の確保、地域バランスへの配慮、なり手不足対策は定数削減以外の取組が重要であることなどが挙げられた。

一方、1減を求める意見では、人口減少の進行、議会に対する住民の厳しい見方、今後のなり手不足の深刻化への対応などが挙げられた。

これらを踏まえ、各委員の考えを確認した結果、**現状維持（10名）が5名、1減（9名）が5名**となり、**双方同数**となった。

2 主な意見

（1）現状維持（10名）を求める意見

- ・定数の問題は議会の活動内容に深く関わるため、慎重な判断が必要である。
- ・議会活動にはなお改善すべき点があり、まずは現状の中で努力を重ねるべきである。
- ・議員を減らすことは、行政監視機能の低下や各議員の負担増につながる。
- ・人口4,000人台において10名は標準的な水準であり、現時点で過大とはいえない。
- ・なり手不足の解消は、定数削減ではなく、若い世代や女性が立候補しやすい環境づくり、議会活動の見える化等により進めるべきである。
- ・将来的に人口がさらに減少した段階で、改めて定数を検討すればよい。

（2）1減（9名）を求める意見

- ・地方議会に対する住民の見方は厳しく、議員定数についても見直しを求める声がある。
- ・前回改正時から人口が減少しており、現状では9名でも十分対応可能である。
- ・今後、なり手不足はさらに深刻化することが予想され、早めに定数を見直すべきである。
- ・少人数体制とすることで、議員一人ひとりがより責任を持って活動し、議会

の活性化につながる。

- ・町民からは、議員としてふさわしい人材が選ばれるべきとの意見もあり、現実を踏まえた対応が必要である。
- ・将来的な人口減少も見据えると、苦渋の選択ではあるが1減が妥当である。

3 調査結果

本委員会は、慎重な協議の結果、委員長を除く9名の表決により決することとなり、表決の結果、現状維持（10名）5名、1減（9名）4名となり、議員定数は現状の10名を維持するとの結論に至った。

4 今後の課題

議員定数については現状維持とするが、今後は次の点について引き続き検討を進める必要がある。

- ・議会活動の活性化と見える化
- ・町民との対話機会の充実
- ・なり手不足対策
- ・若年層・女性の立候補しやすい環境整備
- ・人口減少を踏まえた将来的な定数の再検討

5 結論

以上のとおり、本委員会は、議員定数を現状の10名を維持することが妥当であるとの結論に至った。

ただし、1減を求める意見についても、人口減少やなり手不足の深刻化を踏まえた重要な意見として受け止め、今後も継続して議員定数のあり方を調査・検討する必要がある。